

都市再生整備計画(厚田地区) 事後評価原案

目次

I. 事後評価原案の概要	1
II. 都市再生整備計画書	7
III. 事後評価シート(原案)	11

都市再生整備計画（厚田地区） 事後評価原案の概要

令和元年11月
石狩市企画経済部商工労働観光課

1. 事後評価の概要

目的と位置づけ

事後評価とは、都市再生整備計画事業において、交付期間の終了時に石狩市が設定した成果目標（数値目標）の達成状況及びその効果要因等を整理し、その後のまちづくりに活かすための作業であり、事業の成果を住民にわかりやすく説明することを目的とします。

内容

1) まちづくり目標等の達成状況の確認

計画段階に設定した数値目標の達成状況、実施過程での取り組みを確認します。

2) 今後のまちづくりの検討

数値目標の達成に関する効果要因、それに基づく事業後のまちづくりの方策を検討します。

2. 実施事業

都市再生整備計画における実施事業

ハード事業

- 観光交流センター整備 : H28～H30年度
- 郷土資料展示室整備 : H28～H30年度
- 案内板・案内サイン設置 : H30～H31(R1) 年度
- 林道八幡沢線改良 : H28～H30年度

ソフト事業

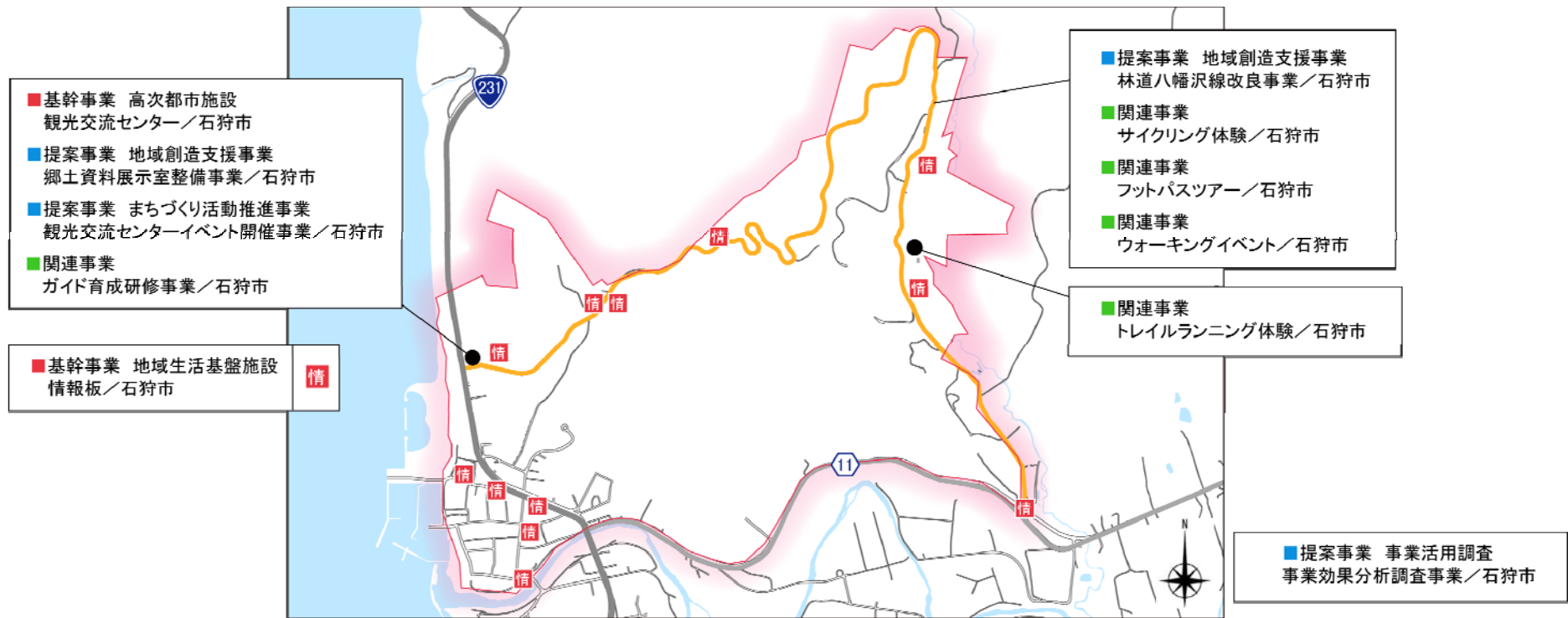
- 観光交流センターイベント開催 : H30年度
- 事業効果分析調査事業 : H31 (R1) 年度

都市再生整備計画と関連して実施した事業

ソフト事業

- ガイド育成研修事業 : H29～H30年度
- トレイルランニング体験 : H29年度
- サイクリング体験 : H30年度
- フットパスツアー : H30年度
- ウォーキングイベント : H28年度

2. 実施事業



観光交流センター：道の駅石狩「あいろんど厚田」



案内板・案内サイン設置



林道八幡沢線改良

3. まちづくり目標等の達成状況の確認

計画段階に設定したまちづくりの目標

【目標】 厚田の魅力を高める交流拠点の形成による地域の活性化

- ①地域の歴史、文化、自然、観光などの情報を発信し、地域の魅力を高める集客・交流拠点づくり
- ②回遊性を高め、地域全体の経済活性化を図るまちづくり
- ③地域の豊かな自然環境とふれあい、体験して楽しむまちづくり

数値目標と達成状況

【指標1】 地域の満足度

従前値:65% (H26) ⇒ 目標値:72% (R1) ⇒ 現在値:82% 【達成】

【指標2】 厚田地区の入込客数

従前値:14.5万人(H26) ⇒ 目標値:29.0万人(R1)⇒ 現在値:54.0万人(推計) 【達成】

【指標3】 自然交流エリアの入込客数

従前値:3,442人(H26) ⇒ 目標値:4,200人(R1)⇒ 現在値:8,453人 【達成】

実施過程における取組

住民参加プロセス

- ・ 計画内容・実施状況を厚田区地域協議会への報告と意見交換の実施（月1回）
- ・ 「道の駅」地域説明会の開催。（H28.5.11）

持続的なまちづくり体制の構築

- ・ 厚田区地域協議会との連携によるまちづくりへの取り組みを促進。
- ・ 厚田こだわり隊など地域団体による厚田PR・地域活性化への取り組みが加速。

4. 今後のまちづくりの検討

数値目標の達成要因

【指標1】地域の満足度

道の駅の新規整備、キャンプ場の案内機能強化や自然体験プログラムの充実などにより、個別施設の満足度の向上し、地域の満足度も向上。

【指標2】厚田地区の入込客数

道の駅の新規整備、自然交流エリアとの周遊動線強化、自然交流プログラムのPR・浸透などにより厚田地区の入込が増加。

【指標3】自然交流エリアの入込客数

自然交流エリアとの周遊動線強化、自然体験プログラムの積極的PRにより、エリアの魅力向上が図られるとともに、道の駅との相乗効果により入込数が大きく増加。

事業実施によるまちの課題の変化

- ・道の駅整備により、厚田地区の新たな集客、交流、地域活動の拠点が形成。
- ・案内サイン・案内板の整備、林道整備により、地域内周遊動線が強化。
また、トレイルランニング体験、フットパスツアーなどの関連事業の実施により、自然交流エリアの自然体験拠点としての認知度が向上。
- ・道の駅、自然交流広場、案内板・案内サインの整備を通じて、集客・交流拠点形成と回遊性向上が図られ、来訪者は地域内でゆったりと充実した滞在できる仕組みが構築。

事業実施を踏まえた今後のまちづくりの方策

- ・道の駅利用者の厚田地区以北への回遊が少ないことから、これらの向上を図る取組の推進。

Ⅱ. 都市再生整備計画書

都市再生整備計画

あつたちく
厚田地区

(第2回 計画変更)

ほっかいどう いしかりし
北海道 石狩市

平成30年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	インカシ 石狩市	地区名	アツタ 厚田 厚田地区	面積	200 ha
計画期間	平成 28 年度 ~ 平成 31 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 平成 31 年度				

目標
<p>【大目標】 厚田の魅力を高める交流拠点の形成による地域の活性化</p> <p>【目標1】 地域の歴史、文化、自然、観光などの情報を発信し、地域の魅力を高める集客・交流拠点づくり</p> <p>【目標2】 回遊性を高め、地域全体の経済活性化を図るまちづくり</p> <p>【目標3】 地域の豊かな自然環境とふれあい、体験して楽しむまちづくり</p>

目標設定の根拠
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>平成17年10月、厚田村、浜益村との合併により、新たな石狩市が誕生し行政面積は72.186haと旧石狩市の約6倍の面積となった。石狩市厚田区は札幌都心部から北におよそ40km(車で約1時間)に位置し、石狩湾に面する海岸は暑寒別天売焼尻国定公園に指定されるなど豊かな自然を有している。</p> <p>通称「オロロンライン」と呼ばれ、本市を南北に縦断する国道231号は、厚田区から国道232号、40号を経由して北海道最北の稚内へ繋がっている。</p> <p>「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」の建設を予定している厚田公園には、厚田資料室、スポーツ施設、「恋人の聖地」北海道第1号に認定された展望台などがあり、区民の憩いの場のみならず、多くの観光客が訪れている。また、隣接する厚田漁港で開催される朝市にも、旬な新鮮な魚介類を求め数多くの来客があるほか、厚田区望来(もうらい)にある戸田記念墓園は全道有数の桜の名所として知られ、年間約40万人が訪れるなど観光・交流人口のポテンシャルが高い地域である。</p> <p>これらの地域資源を背景に、厚田区では、スポーツ・食をテーマに区民の健康増進・世代間交流に取り組む『厚田コミュニティゆめ倶楽部』、厚田区ゆかりの著名人を中心にPRし新たな地域づくり・歴史文化の伝承に取り組む『厚田資料室サポートの会』、厚田の「土地」「味覚」「らしさ」に拘り、漁・農・商・観等の連携に取り組む『厚田こだわり隊』など地域の住民が主体となって独自性豊かな様々な活動を展開しており、今後、地域が一丸となって、これらの活動の発展と内外への情報発信を目指している。</p>
課題
<p>厚田区においては、これまで独自性豊かな活動を展開してきたが、過疎化の進行がとまらず、少子高齢化も深刻で地域のコミュニティ機能や活力が衰退している。</p> <p>そのため、地域の魅力、ポテンシャルを活かした交流人口の増大などによる地域の活性化や地域コミュニティの活力再生に向けた方策が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚田の自然環境や風景、歴史、文化など地域の魅力を発信し、交流人口の増大による地域の活性化を図るため、新たな集客・交流拠点の形成が必要である。 ・地域の豊かな自然環境を活かした地域の魅力向上を図るため、既存施設の有効活用や再整備、自然体験型の新たな観光メニューの創出などが必要である。 ・地域コミュニティの活力を再生するため、集客・交流拠点の形成とあわせて、回遊性を高め、来訪者が地域内でゆったり滞在できる仕組みの構築が必要である。
将来ビジョン(中長期)
<p>厚田公園内に「集客・交流」「にぎわい」「歴史・文化」の拠点となる複合施設「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」の整備を行い、観光情報や地域の魅力を発信し、交流人口の増大を図る。市民・事業者・行政が協働して観光・おもてなしの視点から拠点づくりに取り組むことにより、来訪客の増加を図り地元へ起業や雇用の場を創出するとともに、自然体験プログラムなどを通じた来訪客と地域住民との交流によって厚田ファン、リピーターの創出を図る。</p> <p>また、地域も来訪客との交流からあらためて地域の魅力を感じとり、それが「地域への愛着や誇り」となり、それが、さらに地域素材を掘り起こし「地域の魅力を高める」という、好循環を生み出すことが期待される。</p> <p>市民・事業者・行政が一体となって、施設の複合化・集約化、地域コミュニティの形成や地域商業機能の再生など、生活拠点の再生に向けて取り組むことによって、「何度も訪れたいような魅力ある観光地」、「住んでみたいまち」となることを目指す。</p>

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値		
					基準年度		目標年度	
地域の満足度	人/年	集客系施設の利用に係る満足度調査	厚田公園内に「集客・交流」、「にぎわい」「歴史・文化」の拠点となる複合施設「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」の整備を行い、地域住民ならびに観光客の満足度を向上させ、交流人口を増加させる。 評価時点の事業効果分析調査による満足度＝H26の集客系施設のうち利用満足度の最高値を目標値とする。	65%	H26	72%	H31	
厚田地区の入込客数	人/年	厚田地区の主要観光施設に訪れる年間入込客数(戸田記念墓地公園、ゴルフ場を除く)	「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」を拠点とし、効果的な情報発信と案内看板の整備などにより、市街地や区内観光施設への回遊性を高める。 評価時点の年間入込客数＝H25～H26の年間入込客数の平均値×2(道内主要道の駅の整備後の入込増加率)を目標値とする。	145,000人	H26	290,000人	H31	
自然交流エリアの入込客数	人/年	自然交流エリアに訪れる年間入込客数	地域の自然環境を活用した「自然交流エリア」において、フットパスやサイクリング体験、ウォーキング事業など、魅力ある自然体験メニューを実施し、既存のキャンプ場の利用促進も含め交流人口を増加させる。評価時点の年間入込客数＝H24～H26のキャンプ場の利用実績の平均値×1.3(規模増加分に相当)を目標値とする。	3,442人	H26	4,200人	H31	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 地域の歴史、文化、自然、観光などの情報を発信し、地域の魅力を高める集客・交流拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の「食」「自然」「歴史・文化」などの魅力を発信する地域活性化の拠点となる(仮称)道の駅あつたか・あいろーどの整備を行う。 ・整備にあたっては、地域住民を中心に事業者・行政が一体となり、地域の魅力を掘り起こし、住民自らの手でその魅力をコーディネート、やりがいと楽しみをもって事業を推進することにより、地域コミュニティの活性化もあわせて図る。 ・また、これまでの住民独自の様々な活動を支援する機能も付加し、来訪者との交流を通じてさらなる魅力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高次都市施設/観光交流センター整備事業 ・地域創造支援事業/郷土資料展示室整備事業 ・まちづくり活動推進事業/観光交流センターイベント開催事業 ・事業活用調査/事業効果分析調査事業
<p>整備方針2 回遊性を高め、地域全体の経済活性化を図るまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客・交流拠点となる(仮称)道の駅あつたか・あいろーどにおいて周辺地域の魅力やモデル周遊コースなどの情報発信を行うとともに、周遊動線の強化を図るため、案内板や案内サインを設置し、朝市や厚田十字街、キャンプ場等回遊性を高めるための仕掛けづくりを行う。 ・また、(仮称)道の駅あつたか・あいろーどと周辺の旧スキー場、キャンプ場、自然散策路等の既存施設を結ぶ、緑豊かな林道八幡沢線を自然体験交流の軸として再整備し、区域内の施設間の連携強化を図ることにより、回遊性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設/案内板・案内サイン設置事業 ・地域創造支援事業/林道八幡沢線改良事業 ・事業活用調査/事業効果分析調査事業
<p>整備方針3 地域の豊かな自然環境とふれあい、体験して楽しむまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場を核として、現在活用されていないパークゴルフ場や旧スキー場、駐車場を含めて自然交流エリアとして位置付け、豊かな自然環境を楽しむ体験できる場として充実・強化を図る。 ・サイクリング体験会、フットバスツアー、トレイルランニング講習会等の自然環境を活かした体験型観光プログラムの創出・提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業/林道八幡沢線改良事業 ・事業活用調査/事業効果分析調査事業 ・関連事業/トレイルランニング体験 サイクリング体験 フットバスツアー ウォーキングイベント
<p>その他</p> <p>◎石狩市のコンパクト化の方針と本計画の関係</p> <p>石狩市都市マスタープランでは市域を「住宅ゾーン」「観光レクリエーションゾーン」「港湾ゾーン」「交流農業ゾーン」「自然環境ゾーン」の五つの大ゾーンに分け、各ゾーンの特徴や地域資源を活かした都市づくりを進めるとともに、交流の格となる重点地区や拠点の整備に取り組むことを掲げています。このうち厚田地区は「観光・レクリエーションゾーン」「自然環境ゾーン」とされており。</p> <p>また、公共施設を20%削減するとした公共施設等総合管理計画の適正管理に関する基本的な考え方において、新規の施設整備事業については単独施設の新規整備は行わず、施設の複合化・集約化、廃止・統廃合を基本とする方針を掲げており、本事業とは齟齬はありません。</p>	

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	1,191	交付限度額	476.4	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業	事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比B/C
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
道路																
道路																
道路																
道路																
公園																
古都保存・緑地保全等事業																
河川																
下水道																
駐車場有効利用システム																
地域生活基盤施設	情報版	案内板・案内サイン		石狩市	直	12基	H30	H31	H30	H31	27	27	27		27	
高質空間形成施設																
高次都市施設	観光交流センター	(仮称)道の駅あったか・あいろーど		石狩市	直	1.156㎡	H28	H30	H28	H30	929	929	929		929	
中心拠点誘導施設																
連携生活拠点誘導施設																
生活拠点誘導施設																
高齢者交流拠点誘導施設																
既存建造物活用事業(高次都市施設)																
土地区画整理事業																
市街地再開発事業																
住宅街区整備事業																
バリアフリー環境整備事業																
優良建築物等整備事業																
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型															
	沿道等整備型															
	密集住宅市街地整備型															
	耐震改修促進型															
街なみ環境整備事業																
住宅地区改良事業等																
都心共同住宅供給事業																
公営住宅等整備																
都市再生住宅等整備																
防災街区整備事業																
合計											956	956	956	0	956	

統合したB/Cを記入してください

提案事業(継続地区の場合のみ記載)

提案事業	事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業	林道八幡沢線改良事業		林道八幡沢線	石狩市	直	960m	H28	H30	H28	H30	28	28	28	0	28
	郷土資料展示室整備事業		(仮称)道の駅あったか・あいろーど	石狩市	直	177㎡	H28	H30	H28	H30	201	201	201	0	201
事業活用調査	事業効果分析調査事業		—	石狩市	直	—	H31	H31	H31	H31	3	3	3	0	3
まちづくり活動推進事業	観光交流センターイベント開催事業		(仮称)道の駅あったか・あいろーど	石狩市	直	—	H30	H30	H30	H30	3	3	3	0	3
合計											235	235	235	0	235

合計(A+B)

1,191

(参考)関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれか〇)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	
ガイド育成研修事業	—	石狩市	—	—	○				H29	H30	2
トレイルランニング体験	キャンプ場、旧スキー場、濃嵐山道	石狩市	—	—	○				H29	H29	
サイクリング体験	旧パークゴルフ場、林道八幡沢線	石狩市	—	—	○				H30	H30	
フットバスツアー	林道八幡沢線及び自然散策路	石狩市	—	—	○				H30	H30	
ウォーキングイベント	林道八幡沢線及び自然散策路	石狩市	—	—	○				H28	H28	
合計											2

Ⅲ. 事後評価シート(原案)

都市再生整備計画 事後評価シート
厚田地区

令和元年11月

北海道石狩市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	石狩市		地区名	厚田地区			面積	200ha	
交付期間	平成28年度～平成31年度		事後評価実施時期	平成31年度		交付対象事業費	1191	国費率	0.4			
1) 事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設 広場(自然交流広場)、地域生活基盤施設 情報版(案内板・案内サイン)、高次都市施設((仮称)道の駅あったか・あいろーど)									
		提案事業	地域創造支援事業(林道八幡沢線改良事業、郷土資料展示室整備事業)、事業活用調査(事業効果分析調査事業)、まちづくり活動推進事業(ガイド育成研修事業、観光交流センターイベント開催事業)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	自然交流広場	事業内容等を精査し、自然交流広場整備を削除、関連事業としてソフト事業を重点的に実施実施。				自然交流広場整備と同様の効果を関連事業で実施するソフト事業により見込むため数値目標は据え置く。				
		提案事業	ガイド育成研修事業	関連事業として実施。				影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業										
提案事業												
交付期間の変更	当初	平成28年度～31年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	地域の満足度	%	65	H26	72	H31	○	ありなし	道の駅の新規整備、キャンプ場の案内機能強化などにより、地域の満足度が向上		
	指標2	厚田地区の入込客数	人/年	145,000	H26	290,000	H31	○	ありなし	道の駅整備、周遊動線強化、自然交流プログラムのPR・浸透などにより入込数増加	令和2年4月	
	指標3	自然交流エリアの入込客数	人/年	3,442	H26	4,200	H31	○	ありなし	自然交流エリアの魅力向上と道の駅との相乗効果により入込数増加		
	指標4								ありなし			
	指標5								ありなし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
	その他の数値指標3											
4) 定性的な効果発現状況	地域住民・団体による主体的な地域活性化への取り組みの活発化(道の駅における厚田PR活動や新規特産品開発・テスト販売など)											
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	厚田区地域協議会への報告「道の駅」地域説明会の開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 厚田区地域協議会など関係機関と連携を図り、協働によるまちづくりを推進する。また、地域振興について、住民と直接的な意見交換の場を設けるよう努める。			
持続的なまちづくり体制の構築	厚田区地域協議会との連携によるまちづくりへの取り組み 厚田こだわり隊による厚田PR・地域活性化への取り組み			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 厚田区地域協議会との連携を促進し、厚田区のまちづくりを推進する。厚田こだわり隊については、厚田PRの場や地域振興活動の場の提供するなど地域づくり活動を積極的に支援する。				

様式2-2 地区の概要

厚田地区(北海道石狩市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】 厚田の魅力を高める交流拠点の形成による地域の活性化 【目標1】 地域の歴史、文化、自然、観光などの情報を発信し、地域の魅力を高める集客・交流拠点づくり 【目標2】 回遊性を高め、地域全体の経済活性化を図るまちづくり 【目標3】 地域の豊かな自然環境とふれあい、体験して楽しむまちづくり	地域の満足度	単位: %	65	H26	72	H31	82	H31	
	厚田地区の入込客数	単位: 人/年	145,000	H26	290,000	H31	542,000	H31	
	自然交流エリアの入込客数	単位: 人/年	3,442	H26	4,200	H31	8,442	H31	
		単位:			H		H		H
		単位:			H		H		H
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅整備により、厚田地区の新たな集客、交流、地域活動の拠点が形成された。 ・案内サイン・案内板の整備、林道整備により、地域内周遊動線強化が図られた。また、トレイルランニング体験、フットパスツアーなどの関連事業の実施により、自然交流エリアの自然体験拠点としての認知度が向上した。 ・道の駅、自然交流広場、案内板・案内サインの整備を通じて、集客・交流拠点形成と回遊性向上が図られ、来訪者は地域内でゆったりと充実した滞在ができる仕組みが構築された。 								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅利用者の厚田地区以北への回遊が少ないことから、これらの向上を図る取組を推進する。 								